2026 年度 アドバンスコース／脳卒中・片麻痺（大阪）　【対面・2027/2/6　プログラム】

片麻痺を捉えなおす～情報構築から行為の回復へ～

08:40-09:00　受付

09:00-09:10　オープニング(オリエンテーション、コースの位置付け、プログラム構成、懇親会案内など)

09:10-09:30　講義①　臨床の問いを更新する　～私たちが向き合っているのは、現象か、解釈か～（赤口）

キーワード：現象と解釈／観察と仮説／臨床の問い

目標：目に見える運動現象とその背景にある病態の解釈を区別し、患者の行為を理解するための臨床の問いを立て直す視点を学ぶ

09:35-10:20　講義②　片麻痺を再考する　～失われた運動ではなく、変質した情報構築を読み解く～（宮本）

キーワード：片麻痺の病態／病的経験／情報構築の変質

目標：片麻痺を運動機能が失われた状態としてのみ捉えず、身体と環境との関係における情報構築が変質した病態として理解する

10:25-11:10　講義③　歩行を“動作”から“行為”へ　～空間・身体・予測から歩行障害を捉えなおす～（橋本）

キーワード：歩行の観察／身体位置の認識／環境との相互作用

目標：歩様や運動学的異常の背景にある身体位置の認識や空間情報の構築を読み解き、歩行練習へつなげる視点を学ぶ

11:15-12:00　講義④　片麻痺上肢の病態を読み解く　～運動の異常と変質した情報構築～（奥埜）

キーワード：上肢の機能システム／感覚運動統合／対象との相互作用

目標：片麻痺上肢にみられる運動の異常を、感覚・運動機能と、対象との相互作用に必要な情報構築の変質から理解する

12:00-12:55　昼休憩（55 分）

13:00-13:50　講義⑤　左右半球損傷をどう読むか　～言語・空間・身体意識から治療を再構成する～（石橋）

キーワード：半球機能差／言語と空間／身体意識

目標：左右半球損傷によって異なる病的経験を、言語・空間認知・身体意識の側面から理解する

13:55-14:40　実技①　行為の創発に向けた情報の構築　～第一段階の訓練を通して考える～（赤口）

キーワード：体性感覚・空間情報／探索と比較／第一段階

目標：身体を通して得られる体性感覚や空間情報を探索・比較し、運動に必要な情報を構築する第一段階の訓練を体験する

14:45-15:30　実技②　行為の創発に向けた予測とイメージ　～第二段階の訓練を通して考える～（赤口）

キーワード：予測と比較／運動イメージ／第二段階

目標：構築された情報をもとに運動結果を予測し、イメージを用いて運動を組織する第二段階の訓練を体験する

15:40-16:25　講義⑥　運動から行為へ、行為から私の生活へ　～認知神経リハビリテーションの到達点～（宮本）

キーワード：回復と学習／行為の意味／生活世界

目標：患者の過去・現在・未来を踏まえ、学習によって生じた変化を、その人にとって意味のある行為と生活へつなげる視点を理解する

16:30-16:50　シンポジウム ～片麻痺を捉えなおす～

キーワード：片麻痺／情報構築／行為

目標：これまでの講義と実技を踏まえ、片麻痺患者における情報構築と行為の回復について、参加者からの質問を交えながら、臨床への応用と今後の課題を考える

16:50-17:00　エンディング(終了のあいさつ、入会案内、地域勉強会、その他の事業について)

18:00－　　レセプション（会場周辺、参加費 5000 円程度　※ 詳細は別途ご案内いたします）

キーワード：講師・参加者との対話／学びの共有／臨床への展開

目標： 講義中に十分に取り上げられなかった疑問を共有し、講師・参加者との対話を通して学びを深め、それぞれの臨床につながる新たな問いを得る